

## 肺水腫

英語名 : pulmonary edema

同義語 : 肺浮腫

### A. 患者の皆様へ



ここで紹介している副作用は、まれなもので、必ずおこるものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡して下さい。

肺に血液の液体成分が血管の外にしみ出してたまる肺水腫は、医薬品の服用によっても起こる場合があります。医薬品の投与後に、急に、次のような症状が見られた場合には、直ちに医師・薬剤師に連絡して下さい。

「息が苦しい」、「胸がゼーゼーする」、「咳・痰<sup>せき たん</sup>がでる」、「呼吸がはやくなる」、「脈がはやくなる」

## 1. 肺水腫とは？

肺水腫とは、肺で血液の液体成分が血管の外へ滲み出した状態をいいます。肺に液体成分がたまるため肺から酸素を取り込むことができづらくなり呼吸が苦しくなります。

一般的に臨床でよくみられる肺水腫は、大きく、2つあります。心臓弁膜症や心筋梗塞など、心臓の病気が原因となって起こるもので、一般に、急性左心不全、あるいは、心原性肺水腫と呼ばれています。もう一つは、急性肺損傷 (ALI)・急性呼吸窮迫 (促迫) 症候群 (ARDS) と呼ばれている肺水腫です。このタイプについては、「急性肺損傷・急性呼吸窮迫症候群」のマニュアルを参照して下さい。

薬剤に強く関係するものとして、毛細血管漏出症候群に伴う肺水腫があります。これは、主として、アレルギー性機序により、全身の毛細血管で蛋白や水分の漏出がおこり、全身のむくみとともに、肺水腫がおこります。非常に稀な疾患です。原因となる薬剤の投与数時間以内に肺水腫を引き起こします。

医薬品が関係する ALI/ARDS 以外の肺水腫 (薬剤性肺水腫) では、心原性肺水腫を来す薬剤として心臓の機能障害を起こす薬剤、毛細血管漏出症候群に伴うものとして免疫抑制剤、抗がん剤などがあります。

## 2) 早期発見と早期対応のポイント

医薬品の投与後に、急に、「息が苦しい」、「胸がゼーゼーする」、「咳・痰<sup>せき たん</sup>がでる」、「呼吸がはやくなる」、「脈がはやくなる」などの症状に気づかれた場合は、服薬等を中止して担当医師に連絡をとり、とにかくすみやかに病院を受診して下さい。

左心不全による肺水腫では、特に、横になると息苦しいため起き上がって座位を取ったり（起座呼吸<sup>きざこまゆう</sup>）、夜中に突然息苦しくて目が覚めたり（発作性夜間呼吸困難<sup>ほっさせいやかんこまゆうこんなん</sup>）、ピンク色（薄い血液の色）の泡状の痰（泡沫痰<sup>ほうまつたん</sup>）が出ます。



※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページの、「添付文書情報」から検索することが出来ます。（<http://www.info.pmda.go.jp/>）

また、薬の副作用により被害を受けた方への救済制度については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページの「健康被害救済制度」に掲載されています。（<http://www.pmda.go.jp/index.html>）